

元気な高齢者を増やして、地域の担い手づくりとICT機器の整備・「官民一体型」小学校の設置

実施日 10月21日(火)～23日(木)
 視察先 長崎市／長く元気で！プロジェクト事業
 佐々町／介護予防ボランティア事業
 武雄市／官民一体型小学校の創設
 春日市／コミュニティスクール
 参加者 齋藤 誠 内藤 光雄 加賀谷 勉
 大沢えみ子 小谷野 剛 矢馳 一郎

文教厚生委員会

文教厚生委員会では、長崎県長崎市、佐々町、佐賀県武雄市、福岡県春日市を視察しました。その一部を報告します。

目的 医療や介護を必要とせず、健康で生きがいのある生活を続けるための健康寿命を延ばす取り組み

背景 団塊の世代が75歳を迎える平成37年に、高齢化率が34.8%、3人に1人が65歳以上になります。75歳以上の後期高齢者の割合は、20%となります。生産年齢人口は減少し、1・6人で1人の高齢者を支える時代となります。

キーワード 健康づくりと生きがいづくり／シニア世代を地域の担い手に／定年後

長く元気で！プロジェクト事業について
 〈医療や介護を必要とせず、健康で生きがいのある生活を続けるための健康寿命を延ばす取り組み〉 長崎市



長く元気でプロジェクトの事業説明

長崎市の取り組み概要
【健康づくり】
 ①高齢者ふれあいサロン
 ②健康づくり推進員の人材育成
 ③食生活の改善 など
【生きがいづくり】
 ①ボランティアポイント制度
 ②情報受発信
 ③社会参加の促進 など

目的 医療や介護を必要とせず、健康で生きがいのある生活を続ける／支えられる側から支える側へ転換／地域で支え合うしくみづくり／現役時代から高齢期に向けての準備活動

背景 団塊の世代が75歳を迎える平成37年に、高齢化率が34.8%、3人に1人が65歳以上になります。75歳以上の後期高齢者の割合は、20%となります。生産年齢人口は減少し、1・6人で1人の高齢者を支える時代となります。

目的 『健康寿命を延ばそう』
 の10万時間の使い方／「出番」と「居場所」を整備する

視察を終えて
 高齢化率が年々増加する中、対象者を55歳からとした事業は、「健康寿命」を延ばす観点からも重要と感じています。



子どもたちの「生きる力」を育むという基本理念のもと、市内全小学校へタブレット端末を導入し、「官民一体型学校」を設置。公と民の活力を相乗的に活かした教育の在り方を模索しています。

ICT活用教育の推進／「官民一体型」小学校の創設
 〈電子黒板、タブレット端末、LMS(学習支援システム)などICT機器の整備と、教育分野における民間ノウハウと活力の融合〉 武雄市

ICT活用教育の推進
 【電子黒板】27年度までに100%
 【タブレット端末】26年度から小学校全児童に貸与。27年度には中学校全児童に貸与予定
 【利活用の状況】電子黒板と連携し、生徒たちの意見や回答例の共有と、電子教科書として利

視察を終えて
 ICTの利活用は、教育環境を大きく変えると同時に、学習指導要領に影響を与えると考えます。また、公立学校に民間の教育手法を融合させることは、教員のスキルアップには有益と感じました。

「官民一体型」小学校の創設
 多様性を認め合い、互いに学びあう教育への転換が求められることから、公立学校の「官」のシステムに「花まる学習会」の「民」のノウハウや活力を融合させ、生徒の生き抜く力を育む教育を行っています。

活用【人材育成・職員研修】先生自ら「ICTスキルアップセミナー」を立ち上げ開催。また、各種研修を随時開催

住みたくなる 住み続けたいまちを目指して

総務経済委員会

実施日 7月29日(水)～31日(金)
 視察先 富山市／シティプロモーション推進事業
 水見市／中心市街地活性化事業
 (商店街のにぎわいの創出)
 金沢市／近江町交流プラザ
 参加者 町田 昌弘 太田 博希
 高橋 久美子 綿貫 伸子
 笹本 英輔 広森 すみ子
 栗原 武 田村 秀二



キャラクターをラッピングした電車(水見線)

今年度の総務経済委員会の行政視察では、委員会の所管である「観光及び商業の振興対策」について、先進市を視察したものです。

コンパクトシティの構築
 富山市では、公共交通手段の活性化に合わせ、公共交通沿線への居住促進を図り、コンパクトシティ構築での、中心市街地活性化にも取り組んでいました。総務経済委員会では、市民の交通手段の利便性を図り、超高齢社会へ対応したまちづくりという観点からも、民間交通事業者などとの連携体制を模索しながら、駅などの拠点への交通アクセスを充実させる施策など、「住みやすいまちの魅力」づくりについて、引き続き研究していきます。

漫画キャラクターを活用
 狭山市では、商店街の店舗数は減少が進み、小売店舗数は平成11年から24年の間にほぼ半減している状況です。地域の小売店舗や商店街が、住民から期待されるものに生まれ変わることで、商業振興や市民生活の向上に貢献するもので、当市は、今後の商店街のあり



駅から徒歩15分の近江町交流プラザ

駅前のにぎわいを創出
 金沢市の近江町交流プラザを含め、商業振興策を再検討する時期にあります。水見市では、市内各商店街の285店舗が、商店街連盟に加入しています。全商店街を対象としたスクーラムリット、顧客サービスの創造や連続性が創発される点が、特記すべき事項でした。また、水見市は漫画家の藤子不二雄(A)氏の故郷であることから、氏の漫画キャラクターのモニュメントを中心市街地に設置し、回遊性の向上を図る事業は、水見市の特徴的な施策であり、参考になりました。

まとめに：
 3市の共通点は、中心市街地の活性化や商店街のにぎわい創出によるまちづくりを実現するには、まちの総合力を高め、魅力的な都市像を発信(シティプロモーション)することでした。これは、多くの方から「選ばれるまち」になるために、まちの魅力を創り出すことが必要と考えます。

まずは、商業施設と併設され、市民ニーズの高い「市民の学習の場」、「親子の集いの場」、「食育推進の場」といった機能を有しています。そして、市民の移動手段である公共交通機関の活性化を図ることで、施設がある駅へのアクセスを充実させていました。また、商店街との連携体制のもと、イベントなどで駅前のにぎわいを創り出すなど、関係団体との連携により生み出された活力をまちづくりに活かす取り組みが行われています。